



7月研究部会報告

7月21日(木)、光陽中学校で7月研究部会(模擬授業)を行いました。学期末であることもあり、なかなか都合がつけられない中、11名の参加者で活発な研究がすすめられました。

模擬授業の内容と様子

資料 卒業文集最後の2行 授業者：光陽中 山谷 庄恵先生

「私たちの道徳」より、『卒業文集最後の2行』です。

<発問と展開の概要>

- ・ T子さんとイチノへ君の人物像について交流。
- T子さんは卒業文集で、なぜ「ほしいのは母親でもなく、本当のお友達です。そしてきれいな洋服です」と書いたのか。
- ◎ T子さんは、なぜ(みんなが読む、思い出に残る、家族も読むかもしれない)文集にこういった事を書いたのだろうか。

話し合いより

- ・ 冒頭に「小学生がいじめられる話」という押さえがあった。本資料に限っては、誰が読んでもいじめの資料なので、考えを狭めることや押し付けることにはならないだろう。
- ・ まず、「いじめ」を扱っている以上、オープンエンドにはならない。授業の大前提として「いじめはいけない」という共通理解は必要。その中で、深めていく授業をしていきたい。
- ・ 今回の授業案はT子さんを追う発問で構成されており、一般的な指導案とは異なる点が特徴。しかし、イチノへ君を追っても、結局はT子さんの深い苦悩に気付くイチノへ君を発問することになるので、これで良いと思っ

た。

- ・ 山谷先生の範読や言葉の拾い方が上手だった。範読は、やはりどういう音で読むか、ニュアンスで印象が全く異なるため、事前の検討や準備、練習が必要。
- ・ 札幌では、T子さんがなぜ「お洋服」と言ったのかを問う実践が何度かされている。聡明なT子さんでさえ、正常な判断ができなくなるほど追いつめられてしまう「いじめの酷さ」を考えることができる発問。



お知らせ

次回の研究部会は9月15日(木)、19時より行います。模擬授業を行います。場所や資料に関しては後日校務支援メールでお知らせします。

また、研究部では、随時「研究部会(勉強会)」の開催および模擬授業の募集をしています。

模擬授業をしてみたい、研究部会を自校で開き、自校の先生を誘いたいという方は研究部・近野(札幌市立あやめ野中学校)までご連絡ください。